

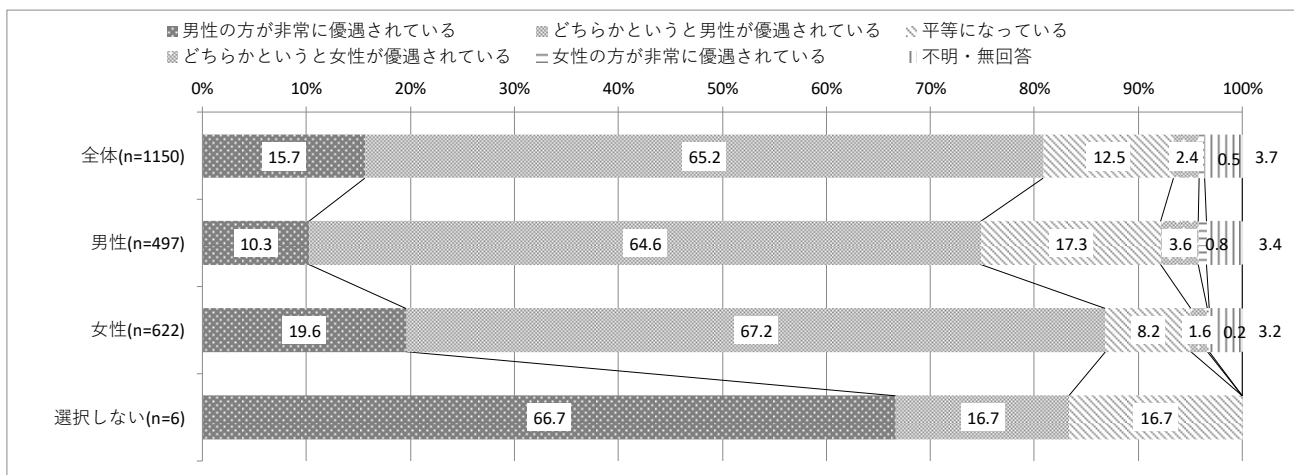
## 長岡市男女共同参画に関する意識調査速報 抜粋

## 指標① 男女の地位の平等（問3）（8）社会全体では

全体では、「男性が優遇（小計）」が80.9%で、「女性が優遇（小計）」の2.9%より78pt高い割合となっている。「平等になっている」は12.5%である。

性別で見ると、「男性が優遇（小計）」割合は、女性が86.8%で男性の74.9%より11.9pt高い。「平等になっている」割合は、男性が17.3%で女性の8.2%より9.1pt高い。選択しないと回答した方は「男性が優遇（小計）」83.4%、「平等になっている」16.7%であった。

図表 2-16 男女の地位の平等について（8）社会全体では



図表 2-17 男女の地位の平等について（8）社会全体では－性別

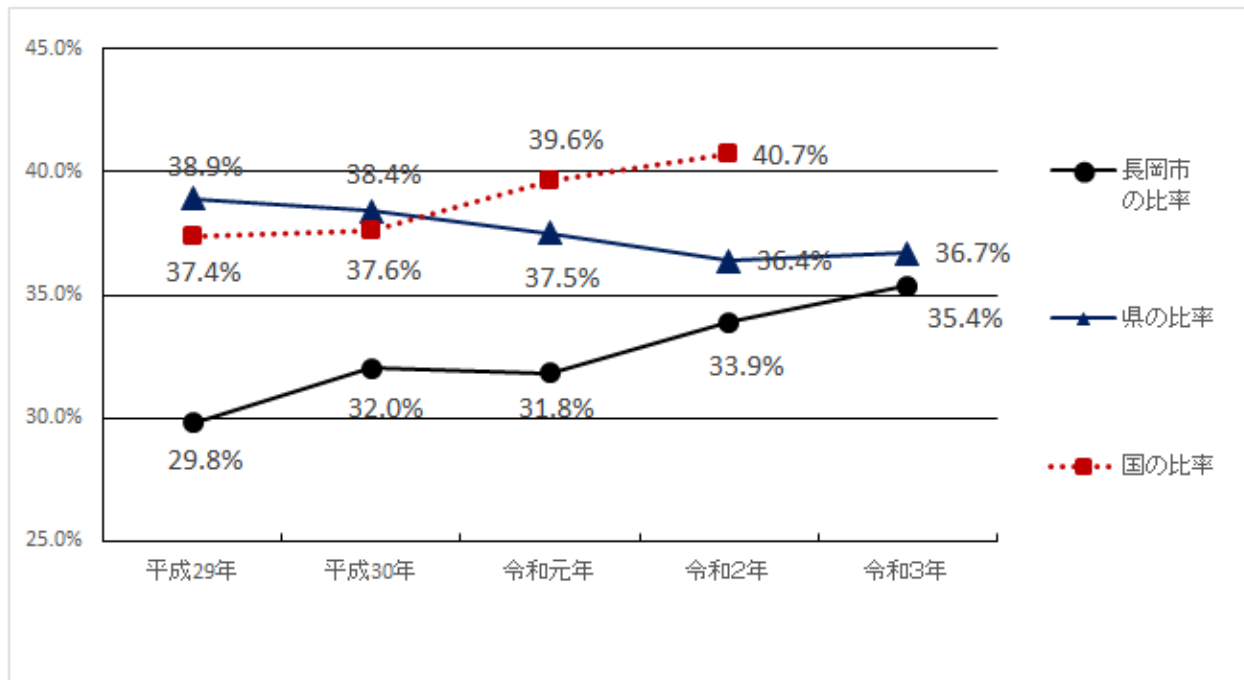
		問3（8）社会全体では						合計	
		男性の方が非常に優遇されている	どちらかというとも男性が優遇されている	平等になっている	どちらかというとも女性が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	不明・無回答		
性別	男性	今回調査	10.3%	64.6%	17.3%	3.6%	0.8%	3.4%	100.0%
		H27年調査	4.6%	65.0%	20.0%	7.2%	1.0%	2.3%	100.0%
女性	今回調査	19.6%	67.2%	8.2%	1.6%	0.2%	3.2%	100.0%	
	H27年調査	15.9%	67.3%	11.9%	2.1%	0.3%	2.6%	100.0%	
選択しない	今回調査	66.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	

## 指標② 「政策方針決定への女性の参画」の割合を高める

年次別登用状況（過去5年）

調査時点	審議会・委員会数	女性委員を含む会数	女性委員を含む会比率	委員数（人）	女性委員数（人）	長岡市の比率	県の比率	国の比率
平成29年	89	86	96.6%	1,335	398	29.8%	38.9%	37.4%
平成30年	87	83	95.4%	1,259	403	32.0%	38.4%	37.6%
令和元年	88	83	94.3%	1,229	391	31.8%	37.5%	39.6%
令和2年	85	81	95.3%	1,228	416	33.9%	36.4%	40.7%
令和3年	85	81	95.3%	1,213	429	35.4%	36.7%	未発表

審議会等における女性委員登用状況の年次別推移（過去5年）



審議会等における女性委員比率の年次別推移

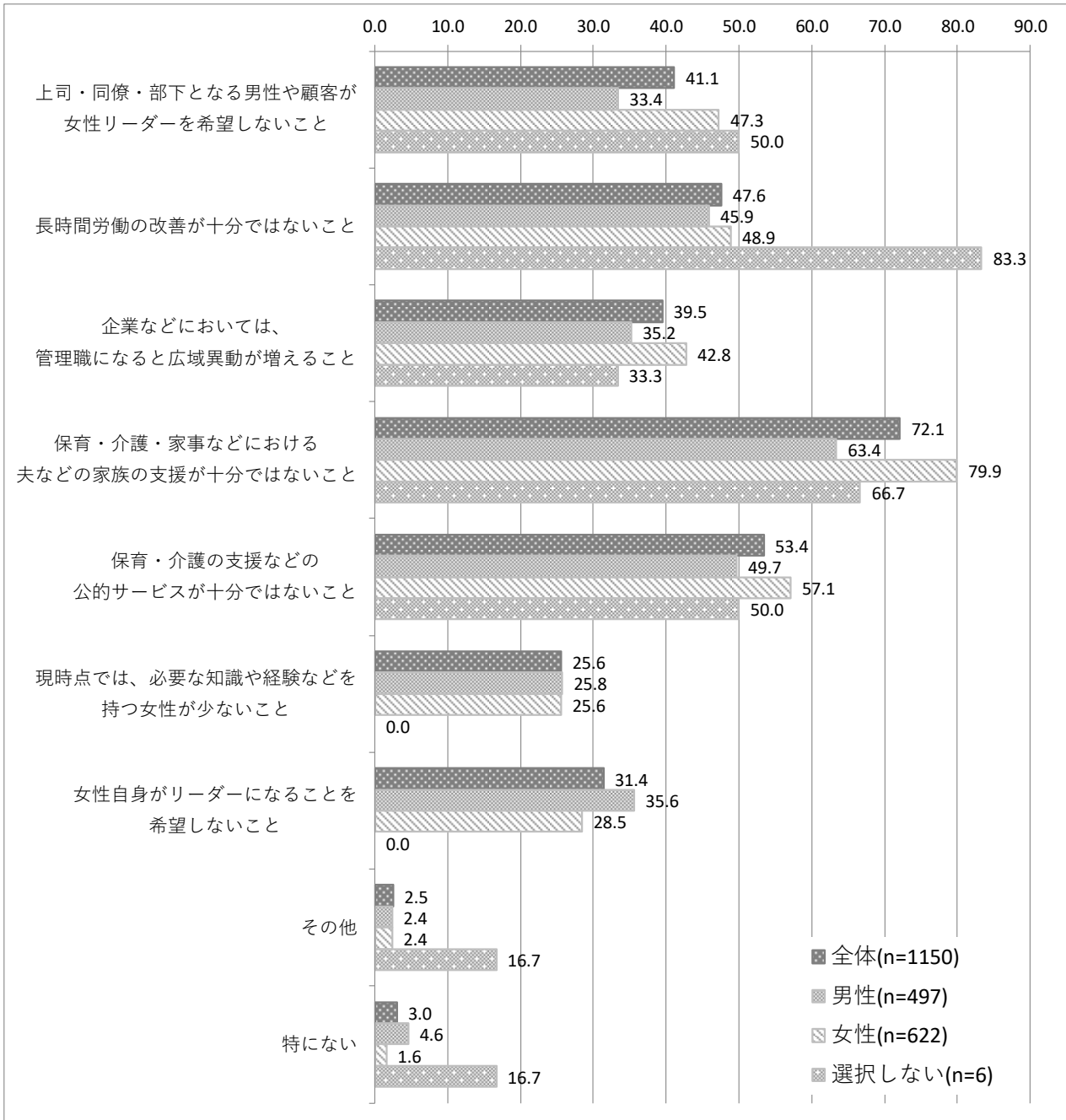
出典：国の比率・内閣府「国の審議会等における女性委員の参画状況調べ」

県の比率・新潟県資料

長岡市の比率・人権・男女共同参画課資料



図表 3-1 各分野で女性のリーダーを増やす時に障害になるもの



図表 3-2 各分野で女性のリーダーを増やす時に障害になるもの－性別

		問4 政策・方針決定過程への女性の参画 (複数回答)										合計
性別		上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと	長時間労働の改善が十分ではないこと	企業などにおいては、管理職になると広域異動が増えること	保育・介護・家事などにおける夫などの家族の支援が十分ではないこと	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと	女性自身がリーダーになることを希望しないこと	その他	特になし		
男性	度数	166	228	175	315	247	128	177	12	23	497	
	年齢の%	33.4%	45.9%	35.2%	63.4%	49.7%	25.8%	35.6%	2.4%	4.6%		
女性	度数	294	304	266	497	355	159	177	15	10	622	
	年齢の%	47.3%	48.9%	42.8%	79.9%	57.1%	25.6%	28.5%	2.4%	1.6%		
選択しない	度数	3	5	2	4	3	0	0	1	1	6	
	年齢の%	50.0%	83.3%	33.3%	66.7%	50.0%	0.0%	0.0%	16.7%	16.7%		

#### 指標④ 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実（問9）

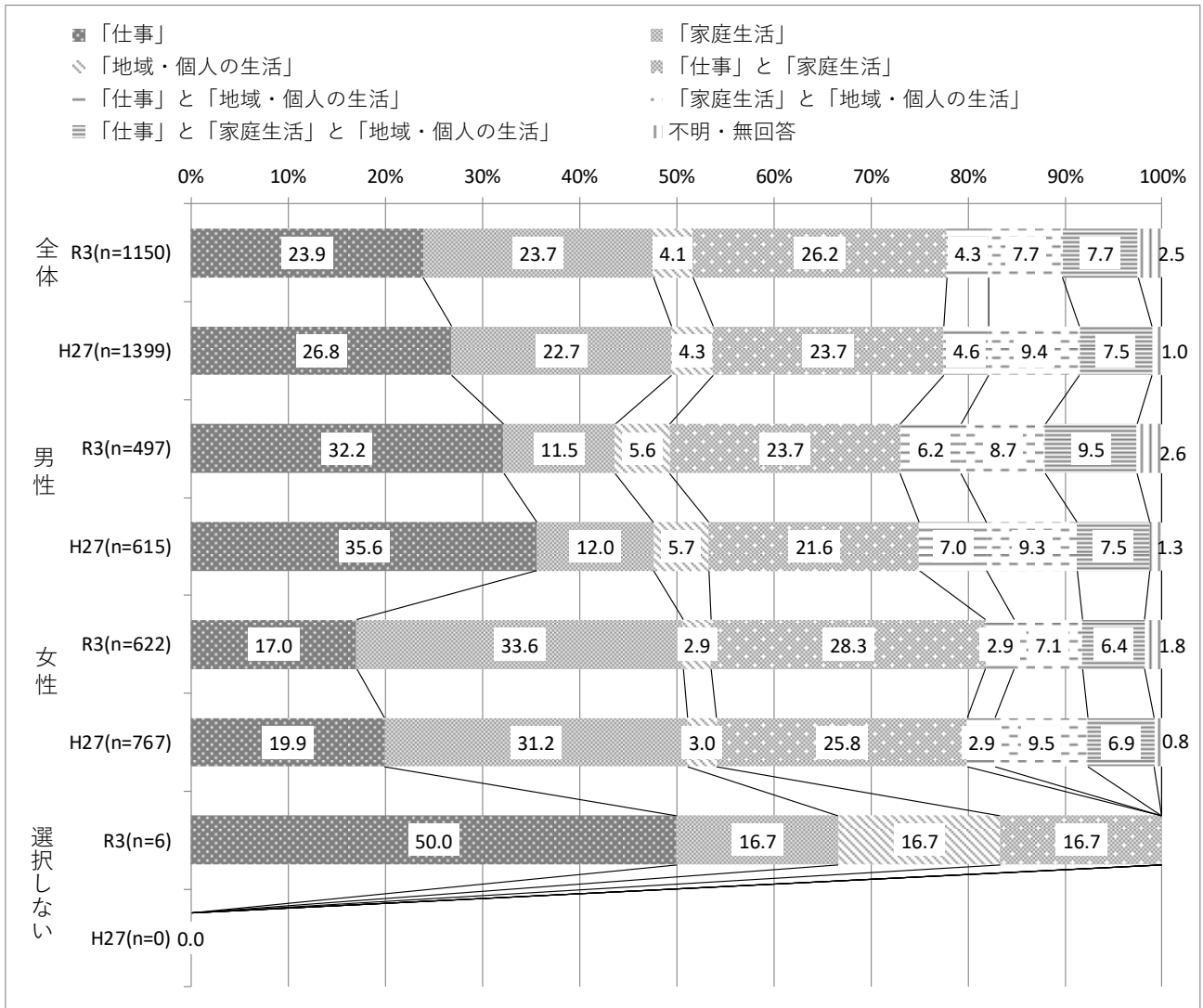
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度について、次の中から最も現実に近いものをたずねた。

- 「仕事」を優先している
- 「家庭生活」を優先している
- 「地域・個人の生活」を優先している
- 「仕事」と「家庭生活」をともに優先している
- 「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している
- 「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している

全体では、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が26.2%で最も高く、次いで「『仕事』を優先している」23.9%、「『家庭生活』を優先している」23.7%の順である。この3つを合計すると全体の73.8%を占めている。経年比較でみると、平成27年調査では、「『仕事』を優先している」が26.8%、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」が23.7%、「『家庭生活』を優先している」が22.7%で合計は73.2%となり、仕事を優先から仕事と家庭どちらも優先の考え方にシフトしていることがわかる。

全体で割合の最も高かった「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」割合は、女性が28.3%で男性の23.7%より4.6pt高い。また、「『仕事』を優先している」割合は、男性が32.2%で女性の17.0%より15.2pt高かった。「『家庭生活』を優先している」割合は、女性が33.6%で男性の11.5%より22.1pt高い。性別を選択しないと回答した方は、半数の50.0%が「『仕事』を優先している」と回答し、次いで「『家庭生活』を優先している」、「『地域・個人の生活』を優先している」、「『仕事』と『家庭生活』をともに優先している」で各16.7%となった。

図表 4-1 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実



図表 4-2 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度の現実-性別

		問6 「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」の優先度（現実）									合計
性別		「仕事」を優先している	「家庭生活」を優先している	「地域・個人の生活」を優先している	「仕事」と「家庭生活」をともに優先している	「仕事」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	「仕事」と「家庭生活」と「地域・個人の生活」をともに優先している	不明・無回答		
男性	今回調査	32.2%	11.5%	5.6%	23.7%	6.2%	8.7%	9.5%	2.6%	100.0%	
	H27年調査	35.6%	12.0%	5.7%	21.6%	7.0%	9.3%	7.5%	1.3%	100.0%	
女性	今回調査	17.0%	33.6%	2.9%	28.3%	2.9%	7.1%	6.4%	1.8%	100.0%	
	H27年調査	19.9%	31.2%	3.0%	25.8%	2.9%	9.5%	6.9%	0.8%	100.0%	
選択しない	今回調査	50.0%	16.7%	16.7%	16.7%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	
	H27年調査	-	-	-	-	-	-	-	-	-	

## 指標⑤ DVの相談窓口（問12）

配偶者や恋人などから暴力を受けた場合の相談窓口として、次の中から知っているところを複数回答でたずねた。

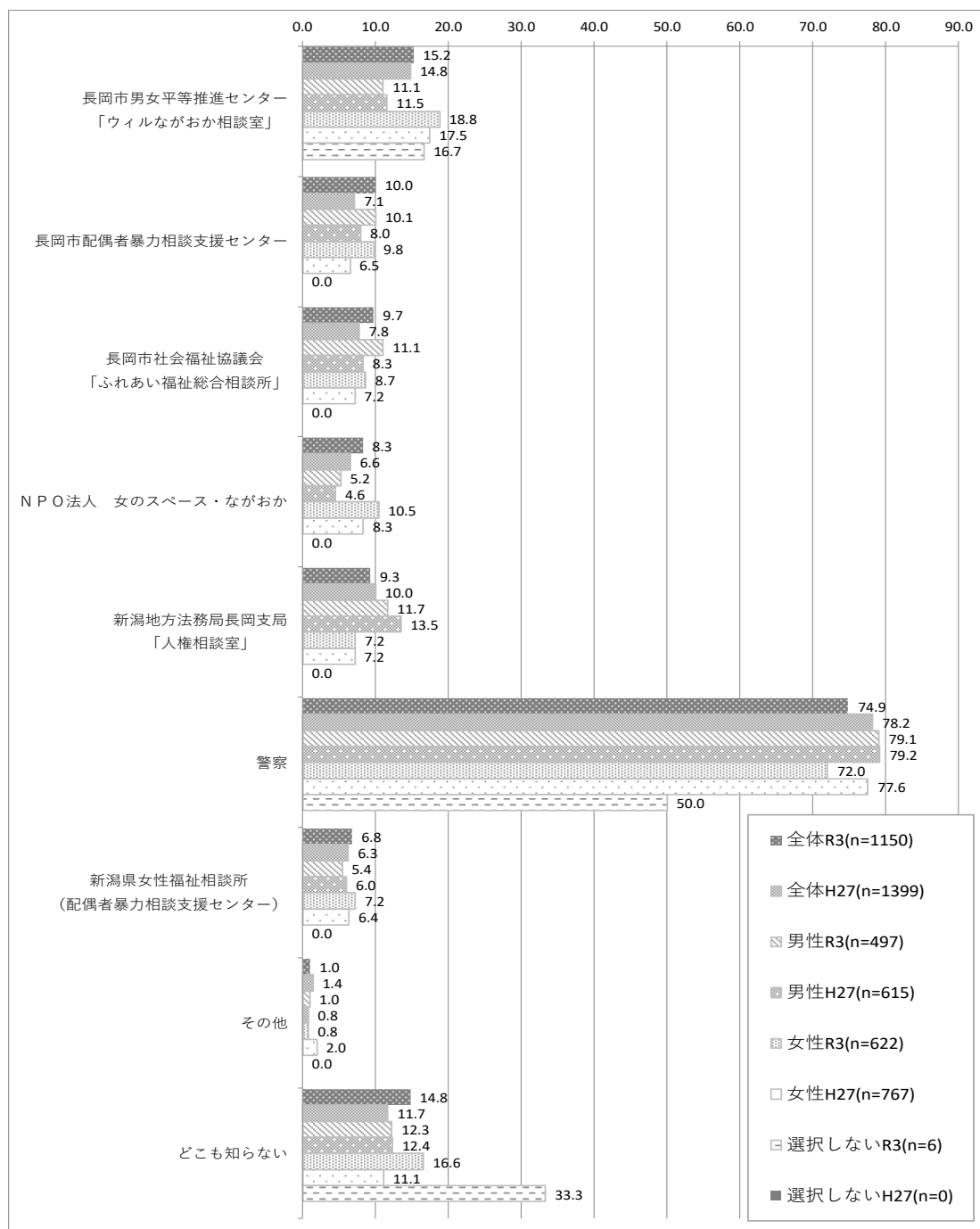
長岡市男女平等推進センター「ウィルながおか相談室」  
長岡市配偶者暴力相談支援センター  
長岡市社会福祉協議会「ふれあい福祉総合相談所」  
NPO法人 女のスペース・ながおか  
新潟地方法務局長岡支局「人権相談室」  
警察  
新潟県女性福祉相談所（配偶者暴力相談支援センター）  
その他  
どこも知らない

全体で最も多かった回答は平成27年調査（78.2%）同様に、74.9%で「警察」となっている。次いで、「長岡市男女平等推進センター『ウィルながおか相談室』」が15.2%（平成27年調査14.8%）、「長岡市配偶者暴力相談支援センター」が10.0%となった。

性別で見ると、「警察」は男性が79.1%で女性の72.0%より7.1pt高い。また「長岡市男女平等推進センター『ウィルながおか相談室』」は女性が18.8%で男性の11.1%より7.7pt高い。その他の相談窓口に関しては、男性と女性で大きな差はなかった。

「警察」以外で多かった回答としては、男性は「どこも知らない」で12.3%、女性は「長岡市男女平等推進センター『ウィルながおか相談室』」で18.8%となっている。

図表 5-1 DVの相談窓口として知っているところ（複数回答）



図表 5-2 DVの相談窓口：どこも知らない-性別

		問 9 DVの相談窓口：認知		合計	
		いずれかを 知っている	どこも知らな い		
性別	男性	今回調査	91.6%	8.4%	100.0%
		H27年調査	87.6%	12.4%	100.0%
	女性	今回調査	89.1%	10.9%	100.0%
		H27年調査	88.9%	11.1%	100.0%
	選択しない	今回調査	66.7%	33.3%	100.0%
		H27年調査	-	-	-